

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01299

研究課題名(和文) 海域アジアにおける港市および港市国家の基礎的研究：広域的・多角的な視座から

研究課題名(英文) Basic research on port-cities and port-city states of Maritime Asia from the cross-regional perspective

研究代表者

四日市 康博 (YOKKAICHI, Yasuhiro)

立教大学・文学部・准教授

研究者番号：40404082

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：従来は東南アジアを中心に研究が進められていた「港市」および「港市国家」について、琉球王国と那覇港を対象に再検討をおこない、那覇港のなかの港市的要素および首里城と那覇港の関係上における「港市国家」的要素に関して実際の空間構造の調査をおこなった。その際に重要な構成要素となるのが、河川および水源、港湾都市の諸機能を持つ市街である。琉球王国の場合、中世におけるそれらの機能や位置関係は必ずしも明らかではないが、近世史や考古学の成果を援用して中世の港市と港市国家機能について定義を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来は東南アジアにおける港市モデルが典型的な概念とされていたが、より対象地域を拡大した上で、改めて港市と港市国家の概念について再検討し、特に、東アジアとイスラーム世界における港市の概念について検討をおこない、より広域的な港市モデルについて提唱をおこなった。なお、その際に、近世琉球と陶磁器流通に関する研究成果を基にして前近代琉球における港市と港市国家の概念をモデル化し、広域的な港市モデルとの関係を考察した。これらは、広域アジアやユーラシアの歴史展開における多地域の相互交流や重曹構造を理解するために極めて有用な概念である。

研究成果の概要(英文)：The "port city" and "port city-state," which have been studied mainly in Southeast Asia, were reexamined for the Kingdom of Ryukyu and the Port of Naha, and a survey of the actual spatial structure of the port city element in the Port of Naha and the "port city-state" element in the relationship between Shuri-jo and the Port of Naha was conducted. In this case, an important component is a city with various functions of a river, water source, and port city. In the case of the Kingdom of Ryukyu, their functions and location in the medieval period are not necessarily clear, but we have attempted to define port cities and port city-state functions in the medieval period with the help of results from modern history and archaeology.

研究分野：東西ユーラシア交流史、海域史

キーワード：港市 港市国家 琉球王国 ホルムズ王国 シンガプーラ王国 海上貿易 陶磁器 航海信仰

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) これまでの琉球王国に関する現地調査と史料研究、陶磁器研究、近世・近代との比較研究によって、港市国家としての琉球王国は、那覇港を主軸としながらも、那覇港を単一港とする港市国家ではなく、複数の港市を内包する港市圏を背景としていることがわかってきた。その際にそれぞれの港市と政治拠点・流通経路を直接結びつけていたのが河川などの水系である。ただし、なお港市と水系の関係については調査事例が多くはなく、今後も引き続き調査を継続して考察・検討を重ねてゆく必要がある。また、琉球以外の東アジア、東南アジア、イスラーム世界、地中海世界における港市、港市国家との比較も欠かすことはできない。

(2) イスラーム世界、特にペルシャ湾における港市国家としてホルムズ王国が挙げられる。琉球王国と直接の交流があったわけではないが、ほぼ同時代に港市国家(王国)として活動していたことや商業活動を国家の基盤としていたことなど、琉球王国との共通点も見受けられる。そのため、本研究では、港市国家の性質や構造を理解し、さらには港市国家としての琉球王国をより深く理解するために、ホルムズ王国に注目する。

2. 研究の目的

「琉球王国」に関して、(1)「海域アジア」のなかの王権、(2)「陶磁器流通」を中心とした物流という側面から、海洋都市国家として類似した性格を持つ「ホルムズ王国」と比較研究をおこない、海域アジアのなかの「港市国家」としての性格や海域アジアにおける「流通構造」を明らかにすることを目的とする。

なお、単なる二項対立の比較とならないために、「東南アジアの港市国家」であったマラッカ王国、サムドラ王国、ラムリー王国(アチェ王国)、シンガプーラ王国との比較も合わせておこなう。

3. 研究の方法

研究期間中、以下の3点において史料研究、現地調査、陶磁資料調査から研究を進めた：

- (1) 港市国家としての琉球王国研究
- (2) 港市国家としてのホルムズ王国研究、および港市国家としての東南アジア諸王国研究
- (3) 琉球王国・ホルムズ王国・東南アジア諸王国の比較研究

現地調査は、イラン、インドネシア、シンガポール、マカオにておこなった。また、数次にわたって沖縄における現地調査もおこなった。

毎年、研究会を開催し、メンバーそれぞれの研究の経過報告・情報交換をおこなった。なお、新型コロナ禍のため、オンラインにて定例研究会をおこない、ワークショップはオンラインまたは対面でおこなった。

4. 研究成果

(1) 東南アジアのみならず、東アジア・イスラーム世界・地中海世界も視野に入れた上で従来の港市の概念に対して、より多角的かつ包括的な港市モデルの提案を試みた。しかしながら、新型コロナ禍による海外渡航制限によってペルシャ湾はもとより東南アジアの調査もおこなうことができず、それぞれの地域における港市の実態を参考にすることができなかった。そのため、比較的容易に調査が可能であった沖縄における琉球王国時代の港市の調査から取り掛かることに

した。

沖縄においては、中世の那覇港を中心に歴史的な空間構造、流通構の考察をおこない、政治拠点・経済拠点・宗教拠点との関わりおよび河川・水系との関係から那覇港の港市としてのモデル化を試みた。また、中世に関わる情報はきわめて限定されているため、近世・近代の事例や研究との比較や関係性から中世の状況を検討した。政治拠点と港市の関係についてはグスクや集落との相対関係、経済拠点との関係については陶磁器をはじめとする海域アジア圏における各種交易品の流通との関係を考慮に入れ、モデルに組み込んだ。宗教拠点との関係については琉球における海上守護信仰がどのように港市の空間構造に反映されているのか、さらには海域アジア・ユーラシア世界における海上守護・航海守護信仰との関連性も考慮に入れた。以上の観点に留意したうえで、2022年12月に共同研究メンバーで統括ワークショップを開催し、琉球王国の港市モデルの仮説を検討して定義をおこなった。なお、このモデルとは那覇港単独に対する港市モデルではなく、各水系に対応する複数の港市を包括する港市圏モデルである。

(2)本来、琉球王国の港市国家研究と並行しておこなわれるはずであったホルムズ王国をはじめとするイスラーム圏の港市・港市国家研究であるが、新型コロナ禍の影響で海外現地調査が2019年度、2020年度、2021年度と延期（繰り越し）され、2022年度末にようやく実施されたため、まずは文献を主体とした港市国家研究をおこなった。主にペルシア語史料・アラビア語史料、さらにはポルトガル語史料、漢語史料、そして、陶磁器資料を考察し、ホルムズ王国の国家形態と国家構造を検討した。その結果は既に国際会議などで報告済みであるが、概要としては、複数の出自を持つ多元的支配者層が存在すること、琉球王国と同様にヒエラルキーを伴う多層的な地域支配構造を持つ「領域国家（帝国）」の側面とより巨大な領域国家に従属しつつ中間勢力として中継貿易などの利権を掌握する「港市国家」的側面を共有することがあげられる。港市国家としても、単一の港市からなる港市国家ではなく、やはり複数の港市を内包する港市圏から成立していたことが確認された。その実態は陶磁器貿易の状況などから確認でき、2022年度末に実施されたペルシャ湾現地ではその裏付けとなる資料や空間構造も確認されたが、その成果は現在整理・検討中である。

(3)東南アジア・東アジアにおける現地調査も2022年度末に実施された。14世紀に港市国家として成立したシンガプーラ（シンガポール）、スマトラ島のジャンビ王国、サムドラ王国、パサイ王国、メダンのコタ・チナ（中国街市）遺跡で調査をおこない、それぞれの港市国家としての構造と諸要素を解析した。その過程で、新資料の発見や従来、港とされていた地点とは異なる地点に港市としての機能を見出すなど新たな成果が得られたが、その成果の整理と発表は今後、引き続きおこなわれる予定である。

(4)港市研究の一環として、港と港を繋ぐ航路、船舶の研究があるが、2022年度は宮古島において水中考古発掘調査をおこない、船舶および遺物を確認した。これにより、那覇港と久米島経由で中国の福州を結ぶルートのみならず、先島諸島を経由する航路の実態が具体的な物証を伴う形で確認された。

(5)港市と港市をつなぐ人的交流の政治的な一側面として、外交・戦争があげられる。2022年度は前年度に引き続き、中世博多における蒙古襲来とそれに前後する外交活動・交易活動の実態に関する調査を実施し、中国側からみた寺社造営料唐船の検討や戦役の再検討、それらに関連する

文字資料の研究がおこなわれた。それに伴い、沖縄の今帰仁城出土の印章に対する新解釈、新たな墨書陶磁資料の収集と整理・分析も進められている。

(6)イランのファールス州、ブーシェフル州、フーゼスターン州（ペルシャ湾北岸）において、港市・キャラバンルート調査が実施され、新たな資料や新たな流通経路・流通形態の認識が得られた。その整理・考察・公表は今後引き続きおこなわれる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 四日市 康博	4. 巻 12
2. 論文標題 港市国家としての琉球王国とホルムズ王国	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 なじまあ : Accessible Asia	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 四日市 康博	4. 巻 82
2. 論文標題 序 (<特集>一四世紀の危機 : 研究の現在)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 149-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00021491	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 向 正樹	4. 巻 256
2. 論文標題 元と南方世界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア (アジア遊学)	6. 最初と最後の頁 251-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 向 正樹	4. 巻 259
2. 論文標題 元・明一統志の非中華世界へのまなざし	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 書物のなかの近世国家 東アジア「一統志」の時代 (アジア遊学)	6. 最初と最後の頁 116-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 達也	4. 巻 14
2. 論文標題 磁州窯と磁州窯系について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 李秉昌博士記念 韓国陶磁研究報告	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石黒 ひさ子	4. 巻 14
2. 論文標題 関于“南海”号出水陶磁上墨書の研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広州文博	6. 最初と最後の頁 116-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四日市康博	4. 巻 79-2
2. 論文標題 緒言 (<特集>一三 一四世紀はアジア史の分水嶺か?)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 四日市康博	4. 巻 79-2
2. 論文標題 総論に代えて モンゴル帝国=元朝の覇権から見た13~14世紀の諸相	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 129-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 四日市康博	4. 巻 128-5
2. 論文標題 2018年の歴史学界 - 回顧と展望：内陸アジア -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 264-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四日市康博	4. 巻 7
2. 論文標題 宋元代の海域アジア交流と沈船遺跡	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 横浜ユーラシア文化館紀要	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四日市康博	4. 巻 80-2
2. 論文標題 声と色から読み解く歴史文書学：イランのモンゴル帝国期命令文書から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 901
2. 論文標題 近世日本の対外政策と琉球	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 52-1
2. 論文標題 先王祭祀と琉球王権：琉球王国末期の廟制から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沖縄文化	6. 最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 32
2. 論文標題 琉球における冠船ハーリーの諸相 - 1838年を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 沖縄芸術の科学	6. 最初と最後の頁 51-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 1
2. 論文標題 王兄尚濬の祀りかた	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 琉球沖縄歴史	6. 最初と最後の頁 33-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森達也	4. 巻 26
2. 論文標題 木村定三コレクションの中国陶磁	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知県美術館研究紀要	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森達也	4. 巻 26
2. 論文標題 木村定三コレクション中国陶磁目録（作品解説）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知県美術館研究紀要	6. 最初と最後の頁 25-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森達也	4. 巻 10
2. 論文標題 中国から琉球 陶磁の道を探る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 なじまあ Accessible Asia	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森達也	4. 巻 2019-7
2. 論文標題 中国青瓷対日本陶瓷的影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 紫禁城	6. 最初と最後の頁 78-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池誠一・菊池百里子	4. 巻 23
2. 論文標題 ベトナム島嶼部の考古学 - 回顧と展望 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 昭和女子大学文化史紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池誠一・菊池百里子	4. 巻 26
2. 論文標題 ベトナム・ホイアン考古学調査報告書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 昭和女子大学国際文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片桐千亜紀	4. 巻 237
2. 論文標題 西欧列強の沈没船遺跡と宮古島 HMSプロビデンス号の調査と研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮古郷土史研究会会報	6. 最初と最後の頁 2-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤実	4. 巻 80(1)
2. 論文標題 序(特集:グローバルヒストリーと中世ヨーロッパ(1):イギリスの視点)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤実	4. 巻 80(1)
2. 論文標題 「グローバルな中世」から「中世のゾミア」へ:オックスフォードの中世グローバルヒストリー(特集:グローバルヒストリーと中世ヨーロッパ(1):イギリスの視点)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 95-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤実	4. 巻 80(2)
2. 論文標題 中世グローバルヒストリーの潮流（特集：グローバルヒストリーと中世ヨーロッパ（2）：ドイツ語圏の視点）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 135-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤実, 諫早庸一	4. 巻 80(2)
2. 論文標題 ウィーン発の中世グローバルヒストリー：ヨハネス・プライザー＝カペラー博士連続講演会（特集：グローバルヒストリーと中世ヨーロッパ（2）：ドイツ語圏の視点）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 114-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤実	4. 巻 13
2. 論文標題 カール大帝の修道院	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 工芸青花	6. 最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤実	4. 巻 471
2. 論文標題 ヴァイキングの切り拓いた交易ルート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ocean Newsletter	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷哲, 幸村誠, 松本涼, 小澤実, 伊藤盡, 中丸禎子	4. 巻 110
2. 論文標題 『ヴィンランド・サガ』の世界を語る！ 歴史とサガとエンターテイメント！ せんだい歴史学カフェ座談会 幸村誠氏を囲んで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東海大学紀要(文学部)	6. 最初と最後の頁 85-110
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計25件(うち招待講演 13件/うち国際学会 16件)

1. 発表者名 四日市 康博
2. 発表標題 海を行き交う人々 海を渡ったイスラーム商人、特にホルムズ商人について
3. 学会等名 令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアム シンポジウム 「海と文化遺産 - 海が繋ぐヒトとモノ - 」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 YOKKAICHI Yasuhiro
2. 発表標題 Chinese Ceramic Trade of the Hormuz Merchants in the Thirteenth and Fourteenth Centuries
3. 学会等名 International workshop "Networks and Ties of Exchange: Trade and Merchants across the Premodern Middle East (600-1600 CE)" (Leiden University)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 YOKKAICHI Yasuhiro
2. 発表標題 Globalizing Ceramic Trade of the Yuan Dynasty and Its Regionality
3. 学会等名 the INTERNATIONAL CONFERENCE on MONGOLIAN STUDIES, 2022 "Globalization and Localization of Mongolian Studies" (The Korean Association for Mongolian Studies (KAMS))(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 MORI Tatsuya
2. 発表標題 Chinese Official Type Ceramics and Vietnamese Ceramics Excavated from Shuri Castle Site, Okinawa, Japan,
3. 学会等名 IMPEREAL CERAMICS in THANG LONG ROYAL PALACE, 2021国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森 達也
2. 発表標題 磁州窯と磁州窯系について
3. 学会等名 大阪市立東洋陶磁美術館 第14回李秉 昌博士記念公開講座「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森 達也
2. 発表標題 東アジアにおける中国陶瓷の流通 - 大陸と琉球の事例を中心に
3. 学会等名 国際シンポジウム 11～14世紀における中国陶磁の生産と流通 - 日本・中国の事例を中心として - (岩手大学) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小澤 実
2. 発表標題 シンポジウムの射程：海老沢有道の遺産をふまえて
3. 学会等名 天草灘かくれキリシタンの世界：松浦家文書から見た生業、交易、島嶼ネットワーク
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hisako ISHIGURO
2. 発表標題 Gang(綱) of letters on ceramics written in ink by the Maritime Archeology
3. 学会等名 Asia-Pacific Regional Conference on Underwater Cultural HeritageAPCONF 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 四日市康博
2. 発表標題 波斯語抄本細密画及意大利絵画所見中式風格在西方的伝播
3. 学会等名 中古アラ伯文献与絲綢之路研究工作坊 (Workshop for Cultural Study on the Medieval Silk Road: Arabic Materials and Research Methodology), 南京大学 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 四日市康博
2. 発表標題 アラ伯史料所見中国商品在伊斯蘭世界の流通
3. 学会等名 中古アラ伯文献与絲綢之路研究工作坊 (Workshop for Cultural Study on the Medieval Silk Road: Arabic Materials and Research Methodology), 南京大学 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOKKAICHI Yasuhiro
2. 発表標題 Mongol Impacts on Dai Viet, Goryeo, and Japan
3. 学会等名 International conference: Lo Giang Temporary Palace, Hung Ha district, Thai Binh province in the history of Tran dynasty (13th-14th centuries) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 四日市康博
2. 発表標題 元史研究中的阿尔達比勒文書
3. 学会等名 “13-14世紀波斯文史料及蒙古史研究”學術研討會，內蒙古大學（招待講演）（國際學會）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 向 正樹
2. 発表標題 明治と現代のモンゴル襲来をめぐる言説・イメージ・国民意識
3. 学会等名 第24回フィリピン研究会全国フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 MUKAI Masaki
2. 発表標題 The Role of Maritime Asian History for Global History Education
3. 学会等名 グローバル展開プログラム国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 麻生伸一
2. 発表標題 倭寇研究と琉球
3. 学会等名 稲村賢敷生誕125周年記念海域アジアと倭寇について考えるシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森達也
2. 発表標題 沖縄考古学と関連する中国台湾の近年の調査事例
3. 学会等名 沖縄考古学会・定例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森達也
2. 発表標題 馬祖列島與琉球王国
3. 学会等名 馬祖水下資産 文化部跨海拳弁國際論壇(台湾・馬祖)(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森達也
2. 発表標題 宋元明龍泉青瓷の外銷
3. 学会等名 龍泉青瓷與全球化國際學術研討會(中国・龍泉)(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森達也
2. 発表標題 近年の中国・台湾における琉球と関連する考古学調査事例
3. 学会等名 首里城研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片桐千亜紀
2. 発表標題 西欧列強の沈没船遺跡と宮古島
3. 学会等名 宮古島郷土史研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 HOLMES, Catherine, Naomi STANDEN, OZAWA Minoru
2. 発表標題 Introduction
3. 学会等名 Medieval Zomia: Stateless Spaces in the Global Middle Ages (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OZAWA Minoru
2. 発表標題 Making Communities through Ships in Late Viking Age Scandinavia
3. 学会等名 Medieval Zomia: Stateless Spaces in the Global Middle Ages (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OZAWA Minoru
2. 発表標題 ヴァイキング襲来期イングランドにおけるデーンゲルドの徴収について
3. 学会等名 第5回西洋中世ガヴァナンス研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小澤実
2. 発表標題 Ship as Warriors' Community for a Maritime Networking Society in the Late Viking Age
3. 学会等名 The Global North: Spaces, Connections, and Networks before 1700 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OZAWA Minoru
2. 発表標題 The Paul Lemerle Library (Rikkyo) in Postwar Japanese Byzantine Studies
3. 学会等名 Symposium: Historiographical Approach in Byzantine Studies: France and Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計23件

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158	

1. 著者名 菊池 誠一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 本の泉社	5. 総ページ数 216
3. 書名 ヴォー・グエン・ザップ将軍とベトナム近現代史	

1. 著者名 藤井 郁乃、四日市 康博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文化遺産国際協力コンソーシアム	5. 総ページ数 71
3. 書名 シンポジウム 海と文化遺産 - 海が繋ぐヒトとモノ - 令和3年度報告書 (海を歩きかう人々 海を渡ったイスラーム商人、特にホルムズ商人について)	

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158 (モンゴルの衝撃：モンゴル・インパクトとは何か)	

1. 著者名 島村 幸一、麻生 伸一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 首里城を解く：文化財継承のための礎を築く (近世琉球期の首里城 儀礼空間としての首里城)	

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博、麻生 伸一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158 (アジアの中の琉球 どのような位置づけにあったのか)	

1. 著者名 安里 進、外間 政明、麻生 伸一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 風媒社	5. 総ページ数 147
3. 書名 古地図で楽しむ首里・那覇（海運・流通・交流からみる那覇港と那覇）	

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博、森 達也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158（陶磁器の生産と流通 ユーラシアにどのような影響を与えたのか）	

1. 著者名 小野 林太郎、木村 淳、片桐 千亜紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 グラフィック社	5. 総ページ数 240
3. 書名 図説 世界の水中遺跡（沖縄海上交易関連の海底遺跡）	

1. 著者名 小野 林太郎、木村 淳、片桐 千亜紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 グラフィック社	5. 総ページ数 240
3. 書名 図説 世界の水中遺跡（沖縄の西欧沈没船遺跡群）	

1. 著者名 小野 林太郎、木村 淳、片桐 千亜紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 グラフィック社	5. 総ページ数 240
3. 書名 図説 世界の水中遺跡 (USSエモンズと日本軍特攻機)	

1. 著者名 菊池 雄太、小澤 実	4. 発行年 2022年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 128
3. 書名 図説 中世ヨーロッパの商人 (商人ヴァイキングの時代-初期中世の交易ネットワーク)	

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博、小澤 実	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158 (中世キリスト教圏：アフロ・ユーラシア世界で孤立していたのか?)	

1. 著者名 南島史学会、石黒 ひさ子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 304
3. 書名 東アジアにおける南島研究 南島史学会創立50周年記念論集 (南海 号墨書陶磁器の「姓」と「花押」をめぐる問題)	

1. 著者名 小島道裕, 田中大喜, 荒木和憲, 四日市康博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 古文書の様式と国際比較 (イルハン朝 (モンゴル支配期イラン) の公文書 (四日市康博))	

1. 著者名 前川修一, 梨子田喬, 皆川雅樹, 四日市康博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青木書院	5. 総ページ数 312
3. 書名 歴史教育「再」入門 (歴史研究と歴史教育における認識の相対化 ユーラシア交流史・海域アジア史を事例として (四日市康博))	

1. 著者名 鈴木英明, 向正樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 東アジア海域から眺望する世界史ーネットワークと海域 (第2章 モンゴル帝国と中国沿海部のムスリム・ディアスポラーアラビア語墓碑にみえる聖伝承よりー (向正樹))	

1. 著者名 秋田茂, 向正樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 412
3. 書名 グローバル化の世界史 (第1章 モンゴル帝国とユーラシア広域ネットワーク (向正樹))	

1. 著者名 麻生伸一, 茂木仁史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 榕樹書林	5. 総ページ数 270
3. 書名 琉球王国尚家文書「火花方日記」の研究	

1. 著者名 呉秀慈, 吳宥霖, 森達也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新北市立鶯歌陶瓷博物館	5. 総ページ数 368
3. 書名 紫砂漫遊 聚焦臺灣(日本與琉球的紫砂文化(森達也))	

1. 著者名 沖縄県立博物館・美術館, 森達也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 沖縄県立博物館・美術館	5. 総ページ数 79
3. 書名 動乱の時代に生み出された遺産 グスク・ぐすく・城(グスク出土の陶磁器(森達也))	

1. 著者名 村井 誠人, 大島 美穂, 佐藤 睦朗, 吉武 信彦, 小澤実	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 294
3. 書名 映画のなかの「北欧」: その虚像と実像(第7章 ヴァイキング 海の覇者たち(小澤実))	

1. 著者名 秋道 智彌, 角南 篤, 小澤実	4. 発行年 2020年
2. 出版社 西日本出版社	5. 総ページ数 240
3. 書名 海とヒトの関係学 海は誰のものか (6章「ヴァイキングが切り開いた北極圏交易 セイウチの牙をめぐるグローバルな経済構造」(小澤実))	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	向 正樹 (Mukai Masaki) (10551939)	同志社大学・グローバル地域文化学部・准教授 (34310)	
研究分担者	石黒 ひさ子 (Ishiguro Hisako) (30445861)	明治大学・研究・知財戦略機構(駿河台)・研究推進員 (32682)	
研究分担者	麻生 伸一 (Asou Shinichi) (30714729)	琉球大学・人文社会学部・教授 (18001)	
研究分担者	菊池 誠一 (Kikuchi Seiichi) (40327953)	沖縄県立芸術大学・芸術文化研究所・研究員 (28001)	
研究分担者	森 達也 (Mori Tatsuya) (70572402)	沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・教授 (28001)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片桐 千亜紀 (Katagiri Chiaki) (70804730)	九州大学・比較社会文化研究院・共同研究者 (17102)	
研究分担者	小澤 実 (Ozawa Minoru) (90467259)	立教大学・文学部・教授 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関